

令和6年度 卒業論文要旨・講評

| | |
|----------------|---|
| 学 生 氏 名 | 山 崎 いずみ |
| 論 文 タ イ ト ル | フランチャイズビジネスが先発優位に対して及ぼす影響 |
| 要 旨 | <p>企業が市場へ参入するタイミングは、企業の競争優位性や経営成果に大きな影響を与える要因であり、市場に先行して参入することで得られる「先発優位」に関する研究は、これまでも蓄積されている。一方で、後から参入する後発企業にもただ乗り(フリーライド)効果などの利点があるため、先発企業は顧客ネットワークの強化などを通じて競争優位を維持する必要がある。その具体的な手段の1つでもあるフランチャイズビジネス(FCB)は、ブランド力や消費者認知の向上を促し、ライバルが参入する際の障壁を高めることで先発優位に寄与すると考えられる。</p> <p>本研究では、これまで別々に研究されてきたFCBと参入タイミングの研究を接合し、ビジネスモデルが先発優位に与える影響を明らかにする。日本初のアイスクリームチェーンとして設立され、フランチャイズを中心に成長を遂げたB-Rサーティワンアイスクリームを事例とし、Lieberman& Montgomery(1988)及びBain(1956)の研究を基に、FCBというビジネスモデルが先発優位性をさらに高めることを明らかにする。</p> |
| 講 評 | <p>本論文は、フランチャイズ戦略が先発企業の競争優位性をいかに維持・強化するかを理論と実証の両面から究明したものである。先行研究を的確に整理し、B-Rサーティワンアイスクリームの事例を詳細に分析したことで、ブランド認知の拡大や参入障壁の構築に関する説得力ある考察が展開された。特に、フランチャイズの特性が先発企業の市場支配力を高める点について論理が明快である。今後、リスクや他業界への応用も検討すれば、実務的意義がさらに深まる。以上より、本論文は経営部門の最優秀卒業論文賞にふさわしいと評価できる。</p> |